

CASBEE-建築(新築)2016年版
 (仮称)株式会社大晃運送機倉庫棟新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.02)

スコアシート		竣工段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		Q 建築物の環境品質						2.2	
Q1 室内環境			0.31	-	-	2.1			
1 音環境		1.0	0.15	-	-	1.0			
1.1 室内騒音レベル	-	-	-	3.0	-				
1.2 遮音	-	1.0	0.67	-	-				
1 開口部遮音性能	-	1.0	0.60	3.0	-				
2 界壁遮音性能	-	1.0	0.40	3.0	-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	3.0	-	3.0	-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	3.0	-	3.0	-				
1.3 吸音	-	1.0	0.33	3.0	-				
2 温熱環境		1.5	0.35	-	-	1.5			
2.1 室温制御	-	2.0	0.50	-	-				
1 室温	-	3.0	0.38	3.0	-				
2 外皮性能	外壁・屋根にグラスウールを使用	2.0	0.25	3.0	-				
3 ゾーン別制御性	-	1.0	0.38	-	-				
2.2 湿度制御	-	1.0	0.20	3.0	-				
2.3 空調方式	-	1.0	0.30	3.0	-				
3 光・視環境		2.4	0.25	-	-	2.4			
3.1 昼光利用	-	3.0	0.30	-	-				
1 昼光率	-	-	-	3.0	-				
2 方位別開口	-	-	-	3.0	-				
3 昼光利用設備	-	3.0	1.00	3.0	-				
3.2 グレア対策	-	1.0	0.30	-	-				
1 昼光制御	-	1.0	1.00	3.0	-				
3.3 照度	-	3.0	0.15	3.0	-				
3.4 照明制御	-	3.0	0.25	3.0	-				
4 空気質環境		3.3	0.25	-	-	3.3			
4.1 発生源対策	-	4.0	0.50	-	-				
1 化学汚染物質	建築資材の下地、仕上げ共F☆☆☆☆を使用	4.0	1.00	3.0	-				
4.2 換気	-	3.0	0.30	-	-				
1 換気量	-	3.0	0.33	3.0	-				
2 自然換気性能	-	3.0	0.33	3.0	-				
3 取り入れ外気への配慮	-	3.0	0.33	3.0	-				
4.3 運用管理	-	2.0	0.20	-	-				
1 CO ₂ の監視	-	1.0	0.50	-	-				
2 喫煙の制御	-	3.0	0.50	-	-				
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	2.5			
1 機能性		2.7	0.40	-	-	2.7			
1.1 機能性・使いやすさ	-	2.5	0.40	-	-				
1 広さ・収納性	-	3.0	0.50	3.0	-				
2 高度情報通信設備対応	事務所はOAフロアとし、ネット通信は竣工後の予定。	2.0	0.50	3.0	-				
3 バリアフリー計画	-	-	-	-	-				
1.2 心理性・快適性	-	2.6	0.30	-	-				
1 広さ感・景観	-	3.0	0.33	3.0	-				
2 リフレッシュスペース	食堂をリフレッシュスペースとし、事務所の執務スペースの1.55%	4.0	0.33	-	-				
3 内装計画	-	1.0	0.33	3.0	-				
1.3 維持管理	-	3.0	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計	-	3.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保	-	3.0	0.50	-	-				
2 耐用性・信頼性		2.3	0.30	-	-	2.3			
2.1 耐震・免震・制震・制振	-	3.0	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数	-	2.0	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数	-	-	-	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	-	2.0	0.67	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	-	2.0	0.33	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-	-	-	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:硬質塩化ビニルライニング鋼管/排水:耐火二層ビニル管	3.0	-	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔	-	-	-	-	-				
2.4 信頼性	-	1.2	0.20	-	-				
1 空調・換気設備	-	1.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備	-	2.0	0.20	-	-				
3 電気設備	-	1.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法	-	1.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備	-	1.0	0.20	-	-				

3	対応性・更新性		2.4	0.30		-	2.4
	3.1 空間のゆとり		1.8	0.43		-	
	1 階高のゆとり	-	1.0	0.60	3.0	-	
	2 空間の形状・自由さ	工場部は将来の使用方法を考慮し空間の自由度を高めたプランと	3.0	0.40	3.0	-	
	3.2 荷重のゆとり	-	-	-	3.0	-	
	3.3 設備の更新性		3.0	0.57		-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.25		-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.25		-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.13		-	
	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.13		-	
	5 設備機器の更新性	-	-	-		-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.25		-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.39		-	2.2
1	生物環境の保全と創出	-	2.0	0.30		-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	-	3.0	0.40		-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		1.5	0.30		-	1.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	特になし	1.0	0.50		-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	2.0	0.50		-	
LR	建築物の環境負荷削減性						3.0
LR1	エネルギー		-	0.40		-	3.5
1	建物外皮の熱負荷抑制	-	3.0	0.20		-	3.0
2	自然エネルギー利用	-	3.0	0.10		-	3.0
3	設備システムの高効率化	過剰な設備設置をさけた	4.9	0.50		-	4.9
4	効率的運用		1.0	0.20		-	1.0
	集合住宅以外の評価		1.0	1.00		-	
	4.1 モニタリング	-	-	-		-	
	4.2 運用管理体制	-	1.0	1.00		-	
	集合住宅の評価						
	4.1 モニタリング	-	3.0	-		-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	-		-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30		-	2.6
1	水資源保護		3.0	0.20		-	3.0
	1.1 節水	-	3.0	0.40		-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60		-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70		-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30		-	
2	非再生性資源の使用量削減		2.5	0.60		-	2.5
	2.1 材料使用量の削減	-	3.0	0.11		-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.22		-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22		-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.22		-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	-	-		-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-	3.0	0.22		-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		2.6	0.20		-	2.6
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30		-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		2.5	0.70		-	
	1 消火剤	-	2.0	0.50		-	
	2 発泡剤(断熱材等)	断熱材はグラスウールを採用	-	-		-	
	3 冷媒	-	3.0	0.50		-	
LR3	敷地外環境		-	0.30		-	2.6
1	地球温暖化への配慮	自由度の高い間取りと長期に利用される建物計画とした	3.8	0.33		-	3.8
2	地域環境への配慮		1.9	0.33		-	1.9
	2.1 大気汚染防止	-	3.0	0.25		-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	1.0	0.50		-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.6	0.25		-	
	1 雨水排水負荷低減	-	-	-		-	
	2 汚水処理負荷抑制	浄化槽	3.0	0.33		-	
	3 交通負荷抑制	敷地内車路や敷地入口を広くとり周辺道路利用者に配慮した。	4.0	0.33		-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.33		-	
3	周辺環境への配慮		2.2	0.33		-	2.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
	1 騒音	倉庫のため特に騒音なし	3.0	0.33		-	
	2 振動	倉庫のため特に振動なし	3.0	0.33		-	
	3 悪臭	-	3.0	0.33		-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		1.0	0.40		-	
	1 風害の抑制	-	1.0	1.00		-	
	2 砂塵の抑制	-	3.0	-		-	
	3 日照阻害の抑制	-	-	-		-	
	3.3 光害の抑制		3.0	0.20		-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	3.0	1.00		-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	-	-		-	

CASBEE-建築(新築)2016年版

(仮称)株式会社大晃運送様倉庫棟新築工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	1.0	1.0				○				○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	4.0		○	-	-	-	-	-	-	○	-	○	○	-	
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0		-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	5.0		-	2.0	-	1.0	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	3.0		-	1.0	1.0	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無															
2.1 材料使用量の削減	1.0		-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	3.0		-	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0		-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	2.0		2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 昼間日射及び夜間照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標	
Q1 室内環境	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH - 昼光率 0.0% 自然換気有効開口面積率 0.0%
3.1.1 昼光率	
4.2.2 自然換気性能	
Q2 サービス性能	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース 6.0㎡/人 病床 8.0㎡/床 シングル 15.0㎡ ツイン 22.0㎡
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 30.0 VA/㎡
1.2.1 広さ感・景観	天井高 2.5 m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース % レストスペース %
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 30 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 20 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 0 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 32.0%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 - N/m2
Q3 室外環境(敷地内)	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 34% 建物緑化指数 6%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 20% 水平投影面積率 7% 地表面対策面積率 9% 舗装面積率 4%
LR1 エネルギー	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m 0.97 断熱等性能等級 等級2 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 80.0% 採光を満たす住戸数 80.0% 通風を満たす教室数 80.0% 通風を満たす住戸数 80.0%
3 設備システムの高効率化	
LR2 資源・マテリアル	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 0.0%
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP)
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 8
LR3 敷地外環境	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 44% 隣棟間隔指標Rw 0.40 地表面対策面積率 19.0% 屋根面対策面積率 16.0% 外壁面対策面積率 0.0% 見付面積Sb 40,000㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 200 m 基準高さHb 450 m 緑地 430㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 300㎡ 高反射対策面 200㎡ 再帰性反射対策面 300㎡